

こんにちは♪ 新入生ははじめまして♪ 図書館司書の“せーやさん”です。通り名は、“図書館の天使”、“本のソムリエ”など数知れず。本が何より好き！というあなたはもちろん、本なんて全然読まないという君の心にも届くような本を、じゃんじゃん紹介していきたくと思っています。よろしくね。図書館は知識を得るための場所、学習のための場所ですが、それだけじゃもったいない。夢を見たり、心が癒されたり、居心地よかったり。君たち一人一人に図書館が意味のある場所になるよう、がんばります。では、あいさつがわりに、昨年度の超オススメ本を紹介します！ どれもハズレなしだよ。

## 昨年度のオススメ本！

### 『歌われなかった海賊へ』 あいさかとうま 遠坂冬馬

衝撃のデビュー作にして本屋大賞受賞作『同志少女よ、敵を撃て』に続く待望の第二作目！ イチオシです。ヒトラー・ユーゲントに真っ向から対立した、少年たちによる「エーデルヴァイス海賊団」の物語。1944年、ヒトラーによるナチ体制下のドイツ。ゲシュタポに逮捕され、死刑に処された父親の敵を討つため、密告者である仇敵をナイフで刺し殺そうとしていた十六歳のヴェルナーは、ハーモニカのメロディに阻止される。メロディの主は少女で、ヴェルナーのことを知っており、彼に会いたがっている奴がいることと自分の名前をエルフレーデだと告げて去った。翌日、約束の場所に行くと、裕福な資本家の息子、レオンハルトがいて、彼らはヴェルナーをエーデルヴァイス海賊団にスカウトするのだった。メンバーはこの3人だけ。「ナチなんてクソであり、そう思う自分たちはここにいる。それを示したい」という思いをともにしている3人だ。鉄道敷設の工事に従事していたヴェルナーは、ヒトラー・ユーゲントの若者たちと戦争捕虜がたくさん駆り出されたこの工事を不審に思っていた。空襲警報の際に事務所で地図を見ると、終着駅の先をさらにレールが延びていて高射砲や鉄条網や地雷で守られていた。何があるのか。エーデルヴァイス海賊団は、それを見届けるためにレールの先を歩くことにした。はたして、操車場だと説明されていたそこは、強制収容所だった。人が満載された貨物列車から、次々と人が降りてきた。降りてこれない人もいた。ナチが行う「究極の悪」を目にした彼らのとった行動とは!?

### 『存在のすべてを』 塩田武士

〈本の雑誌が選ぶ 2023 年度ベスト 10〉第 1 位！「神奈川県警は日本の犯罪史上、類を見ない展開に直面することになる」。序章では、平成 3 年に起きた「二児同時誘拐事件」が書かれます。厚木で小 6 の男子が誘拐され、警察が総掛かりでその対応に追われるなか、今度は横浜で 4 歳の男児誘拐事件が起きる。前代未聞の事態。厚木が<sup>おとり</sup> 囮で横浜が本命か。一つ目の事件の男児は無事保護されるが、二つ目の事件で身代金が犯人にうまく渡らず男児・亮は戻らなかった。ところが、その 3 年後にひょっこりと亮は自分の足で帰ってくるのだった。亮の家庭は特殊で、母親は父親と別居し、育児放棄状態で実の子供が誘拐されても無関心で、警察が動こうにも彼の写真 1 枚ない状態。裕福な祖父母が身代金も用意し、その家に 7 歳に成長して帰ってきたのだった。それから三十年後の令和 3 年からが本編。まるで写真のような美少女を描く「写実」のイケメン画家・如月脩が、実はあの「二児同時誘拐事件」の亮であることが、写真週刊誌によって明かされる。戻ってきた 7 歳の亮は、身なりがきれいで、読み書きができ、画力が向上して、きちんと育てられた様子が見受けられた。「空白の 3 年」。彼は何者かに愛されて育ったのではないか。自らの美術画廊をスタートさせようとしている里穂もその記事を見た。里穂の高校時代の初恋の人だった…。

### 『藍色時刻の君たちは』 前川ほまれ

ヤングケアラーと東日本大震災、辛いばかりの話になってしまいがちな大きな二つのテーマと向き合い、その先に希望を描き出した感動作！ 山田風太郎賞受賞！ 宮城県の港町に暮らす高校 2 年生の小羽はヤングケアラーだ。母親が統合失調症のため、家事のすべてはもちろん、妄想に振り回される母親のケアもしなくてはならない。「私って、可哀想に見えます？」「お母さんはずっとこうなので。私にとってはこれが普通なんです」。同情はしてほしくないし、可哀想だと思われたくもない。彼女のことを理解できるのは、双極性障害の祖母の介護をしている同級生の航平と、アルコール依存症の母と幼い弟の面倒を見ている凜子だけだった。ヤングケアラーの 3 人は結束していた。そんな 3 人を理解し、力になろうとする大人が現れた。青葉さん。26 歳。東京からやってきて、叔父夫婦と同居しながら、中華料理屋を手伝っている女性。3 人は彼女におおいに救われるのだった。「いつかちゃんと、手を離しなさいね」「いつか手を離して、誰かにゆだねるんだよ。小羽には小羽の人生があるんだから」。ところが、2011 年 3 月に東日本大震災がやってきて…。

### 『成瀬は天下を取りに行く』 宮島未奈

デビュー作ながら、ダ・ヴィンチやキノベス！ほか、なんと九冠でランキングを席卷！「わたしはこの夏を西武に捧げようと思う」。中2の1学期の最終日、また成瀬がおかしなことを言い出した。いつだって成瀬はすごくて変だ。幼稚園のころからほかの園児とは一線を画していて何でもできたし、小学校の卒業文集に書いた将来の夢は「二百歳まで生きる」だった。「わたしはシャボン玉を極めようと思うんだ」と言うや、夕方のローカル番組「ぐるりんワイド」に出演するところまで行ってしまう。西武に捧げるとは、毎日西武に通うということだ。地元民からこよなく愛されてきた大津市唯一のデパート、西武大津店が八月いっぱいまでクローズしてしまう。「ぐるりんワイド」で生中継をするから、毎日通ってテレビに映りこむのだという…。「わたしはお笑いの頂点を目指そうと思う」。「かつてなく最高」の主人公、成瀬のキャラがいいのはもちろん、M-1目指してコンビを組まされてしまう、幼なじみの島崎との距離感がいいです！成瀬が観光大使になる『成瀬は借じた道进行』もオススメ！

### 『ともぐい』 河崎秋子

直木賞にふさわしい大傑作！ 人里離れた山のなかでひとり生きる熊猟師の生き様を描いた骨太で壮絶な作品。しかも、この類によくありがちな敵であるラスボスの大熊を倒すまでを書いただけの話ではないのです！ 息つく暇もなく、ストーリーが展開していき、より大きな物語が語られます。舞台は北海道の東部、白糠の山中。家族はいず、名のない犬とだけ暮らす熊爪は、鹿や熊を殺し、解体し、必要に駆られたときだけふもとに降りてきて、それをお金に換えて暮らしていた。それが当たり前で、変わりたいたいと思わず、そんな生活を繰り返してきたが、春の訪れが近づくころ、山中で片目をつぶされるほどの大けがを負った猟師の男を見つける。彼は冬眠のできなかった熊「穴持たず」を阿寒から追ってきたのだが、仕留めることができず逆襲されてしまったのだった。熊爪は男を助け、穴持たずを倒すことになる。ところが、ようやく見つけた穴持たずは、目の前でより若くて巨大な熊に倒されてしまい、熊爪も腰の骨を割る重傷を負い、しばらくは猟のできない体にされてしまう。穴持たずと闘い仕留めるべき存在は自分ではなかったことを、思い知らされたのだ…。「死に損ねて、かといって生き損ねて、ならば己は人間ではない。人間のなりをしながら、最早違う生き物だ」。著者は、かつては北海道の羊飼いでした。学生時代の北海道史をアーカイブ化するアルバイト経験も作品に生かされています。

### 『黄色い家』 川上未映子

ブランチ BOOK 大賞！ キノベス！でも第2位！「このさき、自分がどこで生きることになっても、何歳になっても、どうなっても、彼女のことを忘れることはないだろう」。そう思っていた、四十歳になって惣菜屋で働いている花は、ネット記事で黄美子きみこの名前を見つけ、彼女のことを何もかも忘れていたことに気づいた。二十年くらい前に、まだ若かったころの数年間を一緒に暮らした黄美子さん。黄美子さんは、二十代の女性を1年3ヶ月にわたり監禁し、暴行を加え、傷害の罪に問われていた。彼女との出会いは、十五歳の夏だった。目を覚ましたら、スナックで働き二人暮らしをしている母の代わりに、眠っていたのだ。その日から夏休みのひと月を二人で暮らした。ずっとこんなふうにご過ごせたらいいと思っていたけれど、ある日突然黄美子さんはいなくなってしまう。冷蔵庫を食べものでぎゅうぎゅうにして。花は高校を卒業したらすぐ家を出ようと安い時給でバイトに明け暮れていたが、必死で貯めていたお金を母の恋人に奪われてしまう。絶望した花は黄美子さんと再会する。「わたしと一緒にくる？」花は高校を辞め、黄美子さんと一緒に「れもん」という名のスナックを開店することになる…。

### 『可燃物』 米澤穂信

『満願』で初めてミステリランキング3冠を達成し、翌年も『王とサーカス』で3冠、そして『黒牢城』では史上初ミステリ4冠、直木賞、山本周五郎賞を総ナメにした米澤さん待望の次作もミステリランキング3冠！これがすごいのは、異色の戦国ミステリだった『黒牢城』とはまったく違い、今作が真っ向勝負の正攻法作品だからです。実力を見せつけました。拍子抜けするくらいオーソドックスでシンプルなあざとさのないミステリ。事件が起き、刑事が捜査し、解決します。たとえば、スキー場で起こった殺人事件の見つからない尖った凶器の行方、深夜3時の交通事故で複数の目撃者が「赤信号突破」だと証言しているのに逮捕に踏み切らない理由など。表題作の「可燃物」は、可燃ゴミばかりを狙った連続放火事件が発生し、容疑者をマークし始めたたん、放火はピタリと止まってしまう。もう犯人は目的を達成したのか？…フェアで模範的なミステリ短編集！



<https://lib-finder.net/yamanashi16/>  
から図書館の本の検索ができます！